ずいそう

リターンライダーと呼ばれて

河　野　良　一

今年，還暦を迎えるにあたって昨年末にこれまでの人生を振り返ってみた。

昭和32年に足立区の西新井大師近くで生を受け，小学3年で両親の出身地である九州福岡に転居し高校までを過ごした。大学は北九州市戸畑区，就職で栃木県宇都宮市在住となり，現在はさいたま市在住で新潟市に単身赴任という転居履歴。

新潟古町と博多中洲は，いずれも商人の街で雰囲気が似通っていることと，父方の祖母が新潟出身であったこともあり何かの縁を感じているところである。新潟は，お酒・海産物・野菜がおいしく，温泉・ゴルフ場にも恵まれているため単身赴任9年目となるが楽しい日々を送っている。

福岡での中学時代に博多中洲にある某メーカーのバイクショールームに友人と片道10 kmの道のりを自転車で通い各種バイクのカタログを収集し，あれに乗りたい，これに乗りたいなどと興じていたがいつかはナナハンに乗る夢を描いていた。

しかし，高校入学直後に兄のバイクを無免許で運転し，家から100 mのところで警察そして家庭裁判所のおせわになることとなってしまった。

高校時代は，バイク免許を取ることはできなかったが大学でバイク免許を取得。ところが免許制度が変更されており中型（400 cc以下）のバイクしか乗ることはできなかった。大学，社会人と400 ccのロードバイクから始まり，50 cc・125 cc・250 ccのオフロードバイクと乗り継いだが，40歳以降はバイクに乗ることもなくなっていた。

さて還暦を迎え何を始めるか……いろいろと考えた末やはり夢に描いていた大型バイクに乗る最後のチャンスと思い，年始から大型二輪免許取得のため教習所に通うことにした。同時にバイクの購入手続きも終え退路を断った形で教習所通いがスタートしたが，講習初日の教官から「河野さんのようなリターンライダーの事故率が非常に高いという現状を知っていますか？」との問い。たしかに最近仕事ではなくツーリングなどでバイクに乗っている若者を見かけることは少なく，それなりに年齢を重ねた人たちが多いとは感じていたところだし，一昔前の暴走族を見かける機会も少なくなっている。体力が衰えてきているところに昔の感覚で大型バイクに乗れば，危険を伴う。と最初に認識させられた瞬間であった。

新潟の冬時期の教習では，やはり降雪の影響で教習が中止となり予定したスケジュール通りにはいかなかったがなんとか検定試験にも合格し，バイクの納車日を迎えることができた（**写真―1**）。会社でロータリー除雪車を製造販売していることもあり毎年冬時期の降雪を期待しているところではあるが，今年は身勝手だが雪が降らないように願っていた。大学時代にバイク免許を取得した際の感覚は，当時若者のバイクによる事故が多発し，なるべく免許は取得させない。との方針で免許試験が行われている感じだったが今回の大型二輪教習を受講した感じでは，安全にバイクを運転する基本動作を行うことができるように教習をしていただいた。

写真―1

３月からバイクに乗っていてあらためて感じるのは，バイク乗りの年齢層が高くなっていること。パーキングなどでの休憩でヘルメットを脱ぐとほぼ同世代の集団である。私と同様にリターンライダーと思われる人たち。もうひとつは，やはり体力の衰え，昔は一日中バイクに乗っていてもなんともなかったのが２時間でクラッチレバーを握る左腕が動かなくなってしまい，握力復活訓練を毎晩実行している……100円ショップで購入したハンドグリップをニギニギしているだけですが。

７月というツーリングに適した季節を迎えて，次の休みにどこに行こうか楽しみながら計画を練っている。リターンライダーではあるが事故をおこすことなく，ゆっくりとワインディングロードと景色を満喫し，土地の食事を堪能しながら今後もできるだけ永くバイクに乗り続けていきたい。

――こうの　りょういち　新潟トランシス㈱
取締役　営業・技術業務領域長――